

川端正和氏文書(1)概要

- 1: 文書群番号 076012
- 2: 文書群名 川端正和氏文書(1)
- 3: 出所 川端正和家(襲名: 又兵衛)
- 4: 家業・役職等 近世: 酒造業
近代: 水堂村戸長、水堂村区長、立花村村会議員、水堂小路町内会長、立花土地区画整理組合副長
- 5: 地名 摂津国川辺郡水堂村/兵庫県川辺郡水堂村/川辺郡立花村水堂/尼崎市水堂/尼崎市西立花町
- 6: 行政区分 ①池田重利領/尼崎藩領/旗本青山氏(幸通系)知行所/兵庫県第10区/三反田組戸長役場/立花村/尼崎市
②幕府領・大坂城代領/武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)領/幕府領/尼崎藩領/(近代以降は①に同じ)
- 7: 歴史 水堂村は、市域西部に位置する。史料上の初見は明応8年(1499)「大内義興感状」(萩藩閩閩録2)。小路(しょうじ)村(少路村とも表記)という中世以来の枝村がある。
村高は、慶長10年(1605)に1,096石余、天保5年(1834)に1,134石余とある。村の大部765石余が池田重利領、尼崎藩領、旗本青山氏知行所となる。川端家はこれに属していた。村の小部369石余は、幕府領、大坂城代領、武蔵国忍藩阿部氏領、幕府領、尼崎藩領というめまぐるしい領主交替を経験した。
水利は水堂井組に属した。氏神は須佐男神社(近世には大梵天王宮)、寺院は浄土宗常春寺・浄土真宗本願寺派金衆寺・同宗同派光輪寺。
川端家は代々水堂村のうち小路村に居住し、近世以来酒造業を営んでいた。酒造は、特に川端又兵衛・喜一郎父子の頃(近世後期～近代)が最も盛んであったようで、近世には摂泉十二郷のうちの北在組に属し、おもに江戸に出荷するための酒を造っていた。またそれ以外にも、近世後期に備中国足守(現岡山市北区足守)での酒造に関わっていた史料もある。18世紀後期から明治後期には西宮郷で酒の出造りをするため川端又五郎家を分家している。
- 8: 伝来 市史編集室が調査済みであった本文書群を、昭和51年に川端正和氏が史料館へ寄託。平成25年7月、再整理を完了した。
- 9: 史料入手先 川端正和氏
- 10: 点数 676点(目録件数339件)
- 11: 年代 寛政11年(1799)～明治43年(1910)
- 12: 構造と内容 本文書群の大半は近世史料であるが、一部明治期史料も含まれる。内容は①支配、②貢租、③金融関係史料のほか、④酒造業等家業などに関する私的文書である。
①は、水堂村知行主の一人であった旗本青山氏の文化・文政期における財政改革関連史料などがあり、②は田畑名寄他年貢米納方通帳などがある。
③は、頼母子講関係、田畑質物、金銭借用覚などがある。④には、備中国足守藩で酒造に関わっていた史料などもある。
川端正和氏文書(2)(3)(4)(5)と本来一体である。
- 13: 関連史料 川端正和氏文書(2)(3)(4)(5)、松井重助氏文書

※本目録は『古文書・近現代目録集1』(『尼崎市史編集目録集26』)掲載の「川端正和氏文書目録」に新たに差出(編著)・宛先・形態・点数・和暦(年月日)・西暦等の情報を追加しました。
※本目録を作成するにあたり、本文書群の再整理を行いました(作業期間:平成24年10月～25年2月)。再整理(文書整理カード採録)は、史料館のボランティアの方々にご協力いただきました。

- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 河野未央

※本目録は『古文書・近現代目録集1』（『尼崎市史編集目録集26』）掲載の「川端正和氏文書目録」に新たに差出（編著）・宛先・形態・点数・和暦（年月日）・西暦等の情報を追加しました。
※本目録を作成するにあたり、本文書群の再整理を行いました（作業期間：平成24年10月～25年2月）。再整理（文書整理カード採録）は、史料館のボランティアの方々にご協力いただきました。